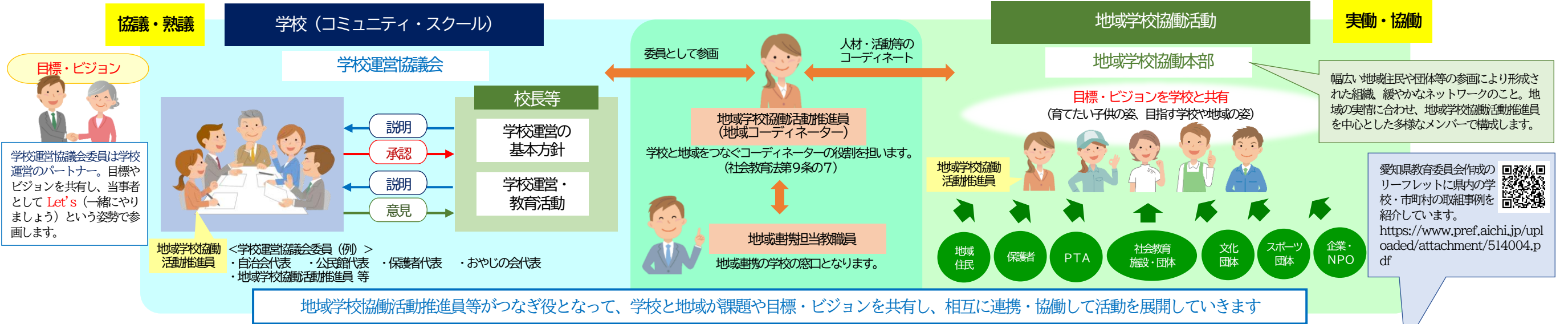


〈特集2〉 コミュニティ・スクールと地域学校協働の一体的推進
～「地域とともにある学校づくり」・「学校を核とした地域づくり」～

昨今、学校と地域を取り巻く課題は複雑化・多様化しています。これに対応するため、学校と地域の連携・協働を一層推進することが求められています。その仕組みとしての「コミュニティ・スクール」の導入が進み、「地域学校協働活動」が広く展開されるようになっていきます。



コミュニティ・スクールとは（地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 47 条の5）

学校運営協議会を設置した学校のことを言います。学校運営協議会では、教育委員会により任命された委員が一定の権限をもって、学校の運営とそのために必要な支援について合議制により協議します。

学校運営協議会には次の三つの役割があり、所管する学校に学校運営協議会を置くことは教育委員会の努力義務となっています。

- 校長が作成する学校運営の基本方針を承認する。
- 学校運営について、教育委員会又は校長に意見を述べることができる。
- 教職員の任用に関して、教育委員会規則に定める事項について、教育委員会に意見を述べることができる。

目標やビジョンを共有するために

学校と地域が連携・協働するためには、子供たちや学校、地域が抱える課題とともに、「どのような子供を育てたいのか」、「どんな学校や地域にしていきたいのか」という目標・ビジョンを共有する必要があります。学校運営協議会では、その実現のために、学校運営や必要な支援について協議します。そのための話し合いを「熟議（熟慮）と「議論」によって課題解決を目指す対話」と言い、協議会での「熟議」を「協働」へとつなげていきます。

- ＜熟議のテーマ（例）＞
- どんな子供に育ってほしいか
 - 地域の力を子供たちの教育にどう生かすか
 - 下校時の安全をどう確保するか
 - 子供たちの学力を向上させるためには 等

もっと知りたい方は

- 愛知県教育委員会あいちの学び推進課
<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/aichi-manabi/>
● 学校と地域でつくる学びの未来
<https://manabi-mirai.mext.go.jp/>



なぜ学校と地域の連携・協働が必要なのか

学校を取り巻く課題の
複雑化・困難化

「社会に開かれた教育課程」の
実現

地域の教育力の低下
(つながりの希薄化 等)

学校だけ、地域だけでは解決できない課題を解決し、子供たちの学びや育ちを地域全体で支える

地域学校協働活動とは（社会教育法第5条第2項）

幅広い地域住民等の参画を得て、地域全体で子供たちの学びや成長を支えるとともに、「学校を核とした地域づくり」を目指して、学校と地域が相互にパートナーとして連携・協働して行う様々な活動のことを言います。

地域課題解決型学習・郷土学習 地域の方から地域について学び、地域の魅力を伝えたり、活性化の方策を考え実行したりする学習活動	「放課後子ども教室」 地域住民の参画を得て、放課後等に全ての児童を対象として行う、学習や体験・交流といった多様な活動	「地域未来塾」 全ての生徒を対象に、教員ＯＢや大学生等の地域住民の協力によって行う学習支援
家庭教育支援活動 寄り添いが必要な子供、不登校傾向のある子供等への対応について、保護者が学び合う機会づくり	学校に対する多様な協力活動 登下校の見守り、学校及び周辺環境の整備、読み聞かせ、授業の補助や部活動の支援等	地域行事やボランティア活動への参画 地域イベントにおけるボランティア、祭りでの伝統文化・芸能の発表や楽器の演奏、地域の防災訓練への参画等

コミュニティ・スクールを導入すると

- 保護者や地域住民等も当事者として積極的に子供の教育に携わるようになります。
- 子供たちの学びや体験が充実し、保護者や地域住民等のやりがい・生きがいにつながります。
- 保護者や地域住民等の理解と協力を得た学校運営が実現し、学校課題の解決につながります。
- 防犯や防災等の面でも課題解決に向けて効果が期待されます。

コミュニティ・スクールは、学校と地域を取り巻く課題解決のための仕組み（プラットフォーム）です。社会に開かれた教育課程の実現、学校における働き方改革、不登校対策、子供の居場所づくり、地域防災等に地域全体で取り組み、成果をあげている学校もあります。